



音楽を指導する先生方を多角的に支援

～今を生きる子どものために

音楽教育はどうあるべきかを共に考え、追求します～

教育学部児童教育学科 教授 古山 典子

キーワード

音楽教育、授業研究、教師教育、音楽経験プログラム、文化芸術振興

該当するSDGs



1 研究内容

これまで、保幼小の音楽活動での教師・保育者と子どもたちの様子をありのままに捉え、そこに多層的に張り巡らされている意味の網の目を読み解いていくことを目的として、フィールドワークを研究手法としながら研究をおこなってきました。また、同じく芸術として括られる美術との比較を通して、音楽と音楽教育(学校教育と専門教育)の独自性をそれぞれ相対化しながら、音楽科のあり方を考えています。

とくに、教師・保育者自身の音楽に対する価値観や感性が音楽指導の礎であり、子どもの音楽学習に大きく影響するものであることから、2025年度までの間、小学校教師の美的価値観や指導観の様相とその変容過程について焦点をあてた研究を継続的におこなってきました。そのなかで、教師を対象として「対話型音楽鑑賞経験プログラム」(IMAEP)を開発・実証してきましたが、現在この IMAEP の対象者を広く一般の方々に拡大し、実践研究に取り組んでいます。とくに、2026 年からはふくやま芸術文化ホールと連携し、「IMAEP with オーケストラ福山定期」事業を開始するなど、研究と地域の芸術文化振興との融合を図りながら、実践に基づく研究を進めています。

また、音楽を教える教師の専門性について、工学の研究者らと共同し、教師の発言内容や視線、身体性、音響などの科学的なデータを多角的に組み合わせながら解明する研究とともに、一人ひとりの教師の語りから、音楽を教えるという経験を浮かび上がらせるライフヒストリー研究にも取り組んでいます。

2 連携可能性のある研究分野、又は、これまでの連携実績

連携可能性のある研究分野

- ・対話型音楽鑑賞経験プログラムの実証研究
- ・音楽授業や指導内容、また指導案・保育案に対する指導・助言
- ・音楽鑑賞または音楽づくりを中心とした音楽指導に関する講演
- ・音楽鑑賞または音楽づくりを中心としたワークショップの開催
- ・幼児・児童、保護者を対象とした音楽イベントの企画・開催
- ・文化芸術振興に関する助言

これまでの連携実績

- ①対話型音楽鑑賞経験プログラム(IMAEP)の開催
- ②小学校校内研修会講師、幼稚園研修会講師、その他音楽に関わるテーマに関する講演、地域の音楽文化振興に関するシンポジスト等
- ③市民を対象とする音楽ワークショップの開催
- ④文化芸術振興についての助言